



会長就任のご挨拶

奈良県立大学同窓会
会長 楠本 雅章



平素より奈良県立大学同窓会の活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年10月同窓会長に就任しました楠本雅章でございます。奈良県立商科大学商学部にて社会人として入学し、平成8年に卒業いたしました。現在、大阪府八尾市および大阪商工会議所で医工連携コーディネーターとして中小企業の支援活動を行っております。

本年度、65周年を迎えた奈良県立大学においては、激動の時代をくぐり抜けて諸先輩方が、奈良県立短期大学・奈良県立商科大学そして現在の奈良県立大学と、その歴史をしっかりと背負ってきていただきました。

この同窓会は、皆様方のご協力なくしては運営できないものでございます。短期大学・商科大学・県立大学ご出身の方々、地域の声、またそれぞれの専門分野の声を、同窓会へ反映していただきたいと考えております。私も同窓会総会やホームカミングディに出席して、会員の皆様のご意見を直接に拝聴し、同窓会運営に反映させていきたいと思っております。

本年度の奈良県立大学同窓会活動は、同窓会の目的「会員の文化的、経済的な向上を目指し、相互の親睦及び本学の発展をはかること」にもとづき、“関東圏（東京）に同窓会支部を作る”、“大学支援の一環として就職活動支援”の二点を中心に行っていきたいと考えています。

地道な活動により、最近では、同窓会総会やホームカミングディへの出席者が、少しずつ増加傾向にございます。昨年10月1日に開催されました第5回ホームカミングディは、過去最高の78名の参加者がありました。

こういう時にこそ、老壮青のバランスが必要であると考えております。今後は、若い卒業生の方々にも、どのような形で参画をしていただくかを含めた、色々な改革を目指して頑張っていく所存でございます。これからの同窓会運営に、皆様方の益々の力強いご指導、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

3月25日(日) 臨時総会 開催!!

来る平成30年3月25日(日)に、同窓会会則全面改正に伴い、**同窓会 臨時総会**を行います。

日時：**平成30年3月25日(日) 午前11時**より

場所：**地域交流棟2階 中会議室**

春先のお忙しい時期ではありますが、同窓会会員の皆様には総会に足をお運びいただき、今後の同窓会運営にご助力いただけますようお願いいたします。 役員一同

2018年年間スケジュール

- 3月25日：臨時総会 開催
- 5月中旬：事業部ボランティア活動 (佐保川清掃活動今年度も参加予定。)
- 夏時期未定：学生支援交流会
- 10月：ホームカミングデイ
- 11月：「秋華祭」模擬店参加支援
- 春：卒業式 同窓会会報発行 他・・・

詳細な日時は予定が決まり次第、同窓会HP掲載告知、ホームカミングデイ案内は葉書でお知らせします。

2018年は、本学の前身である奈良県立短期大学商経学部の創設から65年目、1990年に4年制大学の奈良県立商科大学商学部を創設してから28年目、2001年に奈良県立大学地域創造学部を創設してから17年目、昼間学部へ転換してから11年目に当たります。このように本学は姿を変えながら、それぞれの歴史を歩んできました。また2015年には、公立大学法人奈良県立大学として新たなスタートを切りました。

2017年3月には3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー：「卒業認定・学位授与の方針」、カリキュラム・ポリシー：「教育課程編成・実施の方針」及びアドミッション・ポリシー：「入学受入れの方針」）を策定し、従来の知識修得型の学びだけではなく、対話と経験を重視し、創造力を持つ人材を育てるために、学生と教員がともに切磋琢磨するような学びの場を創ることに取り組んでいます。「学習コモンズ制」は、本学の独創的な教育システムです。学ぶことと教えることが分けられるのではなく、教えながら学び、学びながら教えることで、学ぶことの楽しさや意味を理解します。本学のカリキュラム・ポリシーの特色は、リベラルアーツ科目及び専門科目の履修による知識の修得、初年次教育及び2～4年生のコモンズ教育での対話と、フィールドワークでの経験を通して創造力を養成することにあります。



本学のキャンパスや大学周辺の風景は、時の経過と共に変化していますが、短期大学時代から変わらないことは、すべての同窓生の皆さんが、奈良の地で学ばれたということです。奈良で学ぶことには、大切な意味があると思います。奈良には、歴史と文化が集積しており、時間がゆっくりと流れ、学びの環境としては大変優れた場所です。まさに学都と呼ぶにふさわしい所だと思います。「心の忙しくない」、「ゆっくりした余裕のある時」を持ちながら学友とともに本学で学んだことは、きっとみなさんの大切な思い出となっていることでしょう。

これからもみなさんの母校がさらに発展するよう取り組んで参りますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

佐保川清掃報告 2017年5月21日(日)

同窓会監事 曲渕和子

平成29年5月21日快晴の日曜日、58回佐保川清掃に、今年度も同窓会活動として参加しました。



佐保小学校校庭で清掃の趣旨、分担、道具貸与等の説明を受け、各自分担地域へ移動し作業を行いました。

今年は、寒い春から、初夏への時期、例年ほど暑さを感じる事はありませんでしたが、前週末の雨降りで、川縁に少しゴミも流れ着いてました。また大勢の方がご家族で参加され、子供さんが川辺に降り、積極的に回収してくれました。私たちは、佐保川堤防の草刈りを中心に作業しました。

慣れない草刈りは少し辛い作業でしたが、運動不足の私には良い気分転換になりました。

佐保川沿いには、桜の並木道が続き、歌碑も置かれて、桜の季節にはかなりの観光客が往来します。しかし、地域住民の方々の努力で、川沿いの道は美しく整備されています。

大学の裏側にある素敵な風景の一部を清掃する事は、なかなか気分の良い事だと思います。

今後も継続して参加予定ですので、同窓生の皆様の参加よろしくお願いします。



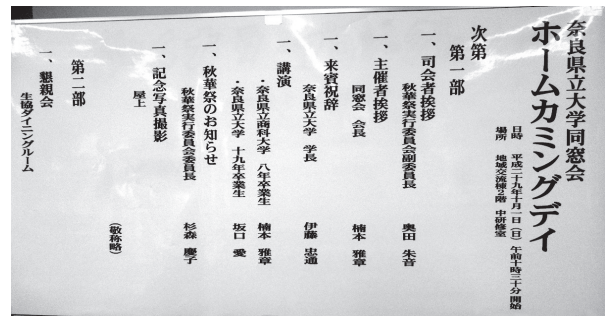
平成29年ホームカミングデイが大学地域交流棟「中研修室」にて10月1日(日)に開催されました。

平成29年10月1日(日)午前10時30分から、大学の「地域交流棟」2階の中研修室において、同窓会主催の第5回ホームカミングデイが開催されました。



司会進行は、地域創造学部3回生で秋華祭実行委員会の副委員長の奥田朱音さんが担当して、まず当日の予定を簡単に説明しました。

次に、本日10月1日付けで会長に就任する楠本雅章の挨拶から開始しました。前久保会長が一身上の都合により7月9日付けで辞任しましたので、その後任となります。続いて、ご来賓の伊藤学長からご祝辞を賜りました。



▼楠本会長就任挨拶▼

奈良県立商科大学に社会人として入学し、夜間課程で商学・経営学・経済学などを学び、平成8年に卒業しました。平成26年に退職後は中小企業の支援活動を行なっています。



短期大学・商科大学、県立大学の卒業生の皆さまや地元の方々から、さまざまなご意見をお寄せいただき、同窓会活動に反映させていきたいと思っております。先輩方に敬意を払いながら、今後とも同窓会運営にご指導やご協力を仰ぎたいのでよろしくお願い申し上げます。

総会やホームカミングデイへの出席者が次第に増えてきて、喜ばしく存じております。短大卒の出席者が安定して半数を占め、いつも参加される方々には大変有難く思っております。その一方、若い卒業生にも多く参加して頂けるよう、企画に工夫を凝らしていきたいと、抱負を述べました。

▼伊藤学長ご祝辞▼

学長就任8年目を迎え、歴代の学長で最長となりました。短大の非常勤講師から始まり、商科大学、県立大学と人生の殆どを、この大学と共に歩んでまいりました。

大学がどのように発展していくのかと言いますと、学生と教員と一緒に学べる独自の教室棟が、来年着工して平成32年春に完成します。これを含めて4棟が新しく建てられ完成すれば、外観が一新した新しい大学が誕生します。

これからの日本に必要なのは、新たな価値を創造することができる創造力のある人材です。大学は創造力を育てる教育を求められています。創造力は、知識と経験の組み合わせによるものです。本学は地域創造学部のみ単科大学であり、このような社会の要請に応えることには限界がありますので、他大学との連携を進めています。まずは、仙台の宮城大学と連携して学生の交流、教員の交流、共同カリキュラムの開発に取り組んでいます。学生の学びの幅や機会を広げるとともに、教育の質保証とその向上を目的にして、教育資源を相互に活用することで創造力豊かな地域人材の育成を目指します。10月には新しく初めての外国人教員が着任しました。



本学の強みを発揮しながら今後もネットワークを広げる予定であり、社会に頼りにされ貢献できる大学の将来像を目指します。

◆ 白 熱 の 講 演 会 ◆

今年の講演会講師は卒業生の二人です。

楠本会長は、奈良県立商科大学を平成8年に卒業後、神戸大学大学院工学研究科を修了しました。医療機器輸入販売会社の副社長を退いてから長年携わってきた専門分野を生かして、八尾市中小企業サポートセンターおよび大阪商工会議所の医工連携コーディネーターをしています。また最近立ち上げた「NPO法人、医工商連携開発機構」の理事長として、八尾市を拠点に埼玉県川口市にもオフィスを構え、幅広く活動しています。その一環として、アメリカの大学留学支援事業を奈良県立大学の学生を対象に行なっています。その傍ら「NPO法人、屯鶴峯地下壕を考える会」の理事長をしています。講演のテーマは、「戦後72年、屯鶴峯地下壕保存運動から平和を考える」で、これに関する著書が出版の予定があります。

坂口さんは、奈良県立大学を平成19年に卒業され、大学卒業後、1年間の民間企業勤務を経てボートレーサーに転身されました。ボートレーサーの試験を受けて、養成所に入學後、7年間現役で活躍され、今年引退されました。現在は新しい仕事をしながら、カウンセラー資格取得に向けて、勉強されています。講演のテーマは女性として珍しい職業選択である「ボートレーサーを経験して」です。



●(1) 楠本会長の講演

大阪市に生まれ、36年前に香芝市に引っ越して屯鶴峯地下壕の存在を知りました。その保存運動に携わるうちに、戦争は二度と繰り返してはならないという思いを強く抱きました。

1991年秋から始まった現地調査により、この地下壕の全容が明らかになってきました。日本陸軍は本土決戦のための航空総軍戦闘指令所として使用する目的で、西日本最大級の軍事用地下壕を作る計画でした。1945年6月から、東西2カ所にそれぞれが高さ3メートル、幅3メートル、延長2キロメートルに及ぶ工事を着工しました。40代後半の日本人と20代の若い朝鮮人兵士が担当し過酷な労働でした。本土決戦に備え240万人動員して、日本国内には若い男性が殆んど残っていない状況で8月15日に敗戦を迎え、この未完成の地下壕が使用されることはありませんでした。

1993年からは地元の香芝市民や学生を対象に見学会を開催して、年間1,000名以上の参加者が訪れるようになり保存運動が始まりました。

地下壕は何を教えるのかと言いますと、奈良県は戦災とは縁がないと思われ古社寺ばかりが有名ですが、凝灰岩が崩れて風化していく戦争遺跡が残っており、それを保存して戦争の悲惨さ、残酷さ、平和の尊さを後世に正しく伝えていかねばならないのです。

20数年間保存運動をしてきたことにより、2016年に「公益財団法人奈良人権文化財団」から「第7回人権文化選奨」を受賞しました。これを機会に、全国の人々に屯鶴峯地下壕の存在意義を知ってもらいたいと思っています。



●(2) 坂口 愛さんの講演

実家は大阪の柏原市で飲食店を経営しており、比較的奈良県にも近く、学費が安い公立大学の地域創造学部で地元の活性化を学ぶために、奈良県立大学を目指そうと思っていました。秋華祭を見学して、学生が生き生きと活躍している様子に受験を決意して、推薦入學で合格しました。

入學後は、午前中に近くのコンビニでアルバイトをして、商品の発注や管理、店内装飾、スタッフの面接や教育まで任せられ、幅広い業務を覚えてやりがいがありました。午後は大学で授業を受けました。2回生の時に、1か月間の海外英語研修でイギリスのウエールズに滞在しました。初めての海外で、異国の文化に触れて、改めて日本の良さを実感するという良い経験をしました。大学では自治会活動を行なって、卒業後も交流する仲間ができました。就活を通じて『就活論07』の執筆にも取り組み、大学生活を謳歌しました。

内定していた企業を断り、アルバイトで充実していたコンビニに正社員として採用されました。23歳で退職して公務員を目指してもことごとく不合格でした。

友人の紹介でボートレーサーを知り、ペアボートに乗ってみて直観的にやってみたいと思い、養成所に入るための試験を受けました。公務員とは真逆の賞金のみが収入の不安定な職業を選択したのです。

11月に受験、12月に合格発表、翌年4月から106期生として24歳で入學し、1年間の訓練を受けました。

1,700名の受験者から40名（男子35名、女子5名）が40倍の難関を突破して入學しました。試験は1次が学科、2次が体力測定、3時が面接、4次が身体検査とふるい落としされていきます。

「人生は一度きり、自分のために挑戦しよう」と訓練に臨みましたが、6時起床、22時消灯で時間との戦いの厳しい訓練でした。国土交通省の管轄で、3か月ごとに試験があり、選手登録したのは40名のうち22名のみでした。

5月にデビューして、住之江をホームプールとして所属しました。モーニングレース、デイレース、ナイターレースとあり、住之江はナイターレースでした。予選、準優勝戦、優勝戦があり、選手は前日に、モーターとボートを抽選してそれらを使用します。

平均年収は1,600万円、選手は全国で1,600名、その内女子は210名で、ランクはA1が2割、A2が2割、B1が5割、B2が1割程度です。性別を問わず、年齢制限なしで、最高齢は70歳と選手生命は長いです。モーターの整備力、プロペラの調整力、ボートの操縦力が重要で、経験が多いほど有利になります。レースは6艇で競争します。

デビューして初めての1着になった時に「水神祭」という儀式で他の選手から祝われて、水中に放り投げられます。デビュー後、85漕目で達成しました。1月10日に尼崎で女子ばかりのレースでしたが、1着になった実況の映像が写されて、ゴールした瞬間に会場から盛大な拍手が起こり、坂口さんが讃えられました。

2年目のレース中に、左腕を骨折しましたが、その時はレースの感覚を失うのが怖く、早くレースに復帰したいと思いました。時速が80キロメートル出ますが、体感として120キロメートルほどに感じられますので、骨折事故はよく起こります。フライングで60日休んで復帰後、同じところを2度目に骨折しましたが、2014年に復帰後、準優勝戦へ進出しました。



2015年に30歳になって、選手を辞めたいと思うようになりました。この年には色々な経験をして、出会った人、訪れた場所に印象が深く感じられ、転機を迎えたと思えました。

人に認められたい、自分がどう生きていきたいのか、自分の人生に責任を持ちたいと深く考えるようになりました。体験を活かしたい、人の役に立ちたいという思いから、カウンセラーを目指そうと決意しました。

結局、再度復帰して2017年3月に引退しましたが、2015年に辞めていたら、まだ選手をしたいと思う気持ちが残っていたと思います。フィギュアスケートの浅田真央選手のように、1年間休養してから復帰して、現役引退の踏ん切りが違ったのと同じ心境でした。

最後は、選手を続ける気力がなくなり、レースが出来ていない、レースを走るのが怖くなりました。

引退後は、住之江競艇場の中のアクアライブ・ステーションの公開ラジオ放送で、ピット・サポートをして、舟券を買う人の参考にできるようにしています。その他、ピット見学者の案内をしています。

摂食障害になった経験から、心理的背景があると思いき、そのサポートをしたいと思っております。7月にNLPマスタープラクティショナーを取得し、現在、12月末にコーチングを取得する予定です。

今回の話で皆さんが自分を見つけるきっかけになればいいと思います。それぞれに、自分らしく生きてやりたいことの芽を咲かせましょうと締めくくられました。



(3) 杉森委員長の秋華祭参加のお願い

地域と大学をつなぐ秋華祭は今年52回目を迎え、多彩なプログラムを用意して11月5日(日)10時から開始します。テーマは「Go to the SHUKA!! 華ある宴が今ここに ごつつ(52) ええ感じ〜!」です。竜宮城に居るというコンセプトに基づく「竜宮ドーム作り」

や、「県大BINGO」は誰でも参加できます。

模擬店は25団体が出展して、同窓会は昨年と同様に「抽選会」を行います。芸人ライブやシニアカレッジのステージもあります。また、恒例の船橋商店街と共同の「餅つき」が行なわれます。地元の皆さまと共に大いに盛り上がりたいと思い、実行委員会は準備に励んでいますので、皆さまのご参加をお願いします。



第I部終了後に屋上で記念撮影を行い、1号館の「大学生協ダイニングルーム」へ移動して、13時から懇親会を行いました。

II 懇親会

奥田さんの司会で懇親会を開始して、実行委員会の在学生8名がお手伝いをしていると紹介しました。

続いて、今年も元気に参加された短大1期卒業生の



木村由一様に、乾杯の発声をお願いしました。

歓談中に、主催者を代表して楠本会長からお礼の挨拶がありました。「本日はお忙しいところ、沢山の方にお集まり頂きまして、有難うございました。来年のホームカミングデイを、よろしくお願いいたします」。



そして宴もたけなわの折、司会の閉会挨拶で、午後3時前に名残惜しくも無事に終了しました。

今回のホームカミングデイの出席者は、来賓が2名、短大が43名、商大が4名、県大が13名、役員が8名、在学生が8名の合計78名でした。講演して頂いた県大卒の坂口さんの友人の影響で、若い卒業生が多かったのが特徴です。数人が懇親会から参加されて、年齢に関係なく交歓する様子で会場が和気あいあいと楽しいひと時を過ごすことができました。

また、今回の講演会で初めてパワーポイントが使用されました。言葉で説明するだけでなく、映像で見ることにより、一層、理解が深まると好評を得ました。



とくに、ボートレースという馴染みのない競技では、スピード感など迫力が直に感じられました。1着でゴールする様子は臨場感満点で、観客席に居て思わず拍手するのと同じ感覚を味わいました。坂口さんのような若い人が、真剣に自分自身の人生を考え行動する姿勢に同窓生として、誇りに思っています。逆に、出席者の皆さんに、「やりたいことを見つけて、花を咲かせよう」とエールが送られました。

楠本会長の「屯鶴峯地下壕」の講演は、資料に基づくデータを駆使して、陸軍と海軍の勢力や制度、大正飛行場(八尾飛行場)との関連など戦争の状況が詳しく説明されて、改めて戦争と平和について考えさせられます。奈良県にある戦争遺跡として、最近テレビでもよく取り上げられていて、関心を持つ人も多くなっていると思います。より多くの若い人に戦争の悲惨さが理解されて保存運動に参加することにより、一層活発化することを期待しています。

今後のホームカミングデイの講演会では、自薦他薦を問わず、活躍されている卒業生に是非とも講師としてお話しただけですよう、よろしくお願い申し上げます。

ご来賓、同窓会員ならびにスタッフの学生の皆様、ご協力有難うございました。本年度も「ホームカミングデイ」を開催しますので、よろしくお願いいたします。

平成29年11月5日(日)に大学のキャンパスで学園祭に同窓会は後援として参加いたしました。

少し肌寒い日でしたが、学生さんや地域の方々、および近隣他校の学生さん、同窓生等の参加者でキャンパスはにぎわいました。



同窓会は、体育館内で例年通り、抽選会を行い一等のお米は毎年好評です。学生さんの模擬店に足を運び抽選券を手にして何回も来店される方、ある学生さんはお米を2本も当て「お母さんが喜んでくれる」と言っておられました。

今年から4等にティッシュと飴玉をつけますと小さなお子さんをはじめ多くの人に喜ばれました。学生サークルのお店以外にも地域の商店



会の有志による餅つき大会やシルバーカレッジの皆さんによる野菜の販売もあり、またゆるキャラの「りにまねくん」の登場もあり、吉本の芸人さんのライブもあり、楽しい一日でした。

『ふなはしサポーター』募集中

●「同窓会サポーター」を募集しています。イベントや活動時に一日だけ簡単な作業などのお手伝いをしていただける方を募集し「ふなはしサポーター」として登録します。(活動仕事内容によっては些少の謝礼も有ります。)OB・OGだけでなく、現役学生の方も登録可能です。皆様のご参加をお待ちしています。

▽詳細は 事務局連絡先へ直接、役員又はEメール npu_dousoukai@yahoo.co.jp までご連絡を…。

同窓会事務局からのお知らせ

●同期会やゼミ会のご報告を募集しています。

懐かしい友との再会のご寄稿お待ちしております。またゼミ会同期会報告や日時のお知らせも会報(年一回3月発行)では受け付けていますので12月末までにご連絡いただければ会報に掲載します。会員の皆様の交流の場としてご利用下さい。

●広報部は会報記事をご寄稿をしていただける方を募集しています。OB・OGの方々のご活躍の様子など情報をお寄せいただけますと広報部が取材に伺います。

▽連絡先はこちら：直接役員へ、又は同窓会事務局Eメール npu_dousoukai@yahoo.co.jp までご連絡ください。

Webサイト『奈良県立大学同窓会』で検索。

<http://奈良県立大学同窓会.jp>



奈良県立大学同窓会ふなはし

facebook グループ始めました

<https://www.facebook.com/groups/funahashi/>

★上記 URL もしくは
右 QR コードにアクセス



◎同窓会ホームページ◎

「奈良県立大学同窓会 Web」もよろしく

<http://奈良県立大学同窓会.jp>

◇編集後記◇

ホームカミングデイ白熱の講演会は今年度大好評でした。ボートレース選手の話は私たちが普段知ることのできない話ですので、その熱い内容を会員の皆様はその熱さごとく報告したいと思ったら、文字がいっぱいになってしまい文字が小さくなってしまった苦肉の編集作業。会員の皆様によりよく同窓会を充実させるべく古い同窓会会則の全面改正等で、役員会会議も連続となり、2017年度は大幅に多忙で熱い年となりました。編集：千葉